

セファゾリン投与が ALT および AST 測定値に与える影響に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2025年10月30日～2028年3月31日

〔研究課題〕

セファゾリン投与が ALT および AST 測定値に与える影響の研究

〔研究目的〕

セファゾリンは幅広く使用されている抗菌薬です。ALT、AST は肝臓の障害のマーカーとして知られています。今回、セファゾリンを使用したときに肝臓の障害とは関係のない検査値の変動がないか検討します。

〔研究意義〕

セファゾリンを使用したときのまれな副作用のひとつに肝障害があります。肝障害が起こると ALT、AST が上昇します。肝臓とは無関係に ALT、AST が変動すると肝障害を正確に評価することができません。ALT、AST の変動についてわかると、肝障害の適切な評価や抗菌薬の安全な使用につながります。

〔対象・研究方法〕

2024年10月1日から2024年11月30日までの期間にセファゾリンまたはセフメタゾール、フルマリンを使用した症例のうち、使用の前後で ALT、AST を測定している症例において、ALT、AST の検査値に差があるかを統計的に検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 中央検査部

〔個人情報の取り扱い〕

特定の個人が識別できないように患者氏名、ID 番号等は記載せずに通し番号を符合します。

研究終了後に電子化したデータセットとして、倫理委員会事務局に提出し帝京大学臨床研究センターにて10年間保管の後廃棄されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 野中将太郎 職名 係員
研究分担者：氏名 横山直之 職名 部長
所属： 帝京大学医学部附属病院 中央検査部
住所： TEL:03-3964-1211(代表)